

緑 風

校訓 継続は力なり



鴻巣市立吹上中学校

教育目標

- ①進んで学ぶ生徒
- ②心豊かな思いやりのある生徒
- ③たくましい生徒

令和3年10月4日 第6号

校風を引き継ぐ

校長 岡田 英行

延長された緊急事態宣言がようやく解除されたものの、引き続き感染症対策が欠かせない学校生活です。スポーツの秋とは言いながら新人戦は中止、芸術の秋とは言いながら対面を避けながらの音楽祭練習という、悩ましい状況が続いています。

一方、小学校では恒例の市陸上大会が中止となり、開催を心待ちにしていた児童たちは、さぞがっかりしていることと思います。残念な気持ちなのは中学校も同じで、例年、大会に先立って行っている陸上教室が、昨年に続いて取り止めとなりました。学区内小学校から6年生を迎え、本校陸上部の生徒が種目別コーチとなって一緒に練習する催しです。緊張はすぐに解けて、校庭のほのぼのとした雰囲気は秋の風物詩になっています。陸上教室は、「きっと、節度をもってみんなで楽しむ吹上中の校風は、半年後の入学の後も引き継がれるに違いない。」と、確信を持てる機会でもあります。

陸上大会は、市内小学校の行事ですが、中学校の校長も開会式だけ出席させていただいています。以前、参列した大会で、おもしろい場面を目にしました。開会式は、「礼。」の号令とともに「おはようございます。」のあいさつで始まるのですが、全体の動きや声そろわないのです。頭を下げる動作と一緒に発声する学校もあれば、あいさつの声を出してからお辞儀をする学校もあります。また、「おはようございます。」に要する時間やイントネーションもまちまちです。きっと各小学校に帰れば、1年生から6年生まで見事にそろうのだと思います。方言のようなもので、各学校の文化と言えるかもしれません。各校にはそれぞれの伝統と指導方針があり、児童はこれをよく守ることで、立派な「〇〇っ子」としての行動様式を身に付けていきます。中学校も同様なのですが、先生の指導というより、上級生が学校生活の中で大切にしている理想を、自分の体に染み込ませていきます。それが、代々醸成されたのが校風です。



本校では、開校記念日を翌日に控えた9月30日（木）に、開校75周年記念集会を開催しました。密集状態とならないよう、生徒は教室に在ながらのリモートが中心でしたが、創立以来の歩みを振り返るとともに、今後の学校生活への意欲を新たにすることができました。これまで、保護者・地域の皆様の協力をいただきながら、歴代の生徒と職員が営々と築き上げてきた校風に誇りを持ち、一層磨きをかけてまいります。

おかげさまで開校75周年 ⑤



10月1日は本校の開校記念日です。制定されたのは、今から60年以上前にさかのぼります。その頃は、吹上町（当時）が小谷村・下忍村と次々に合併し、町の中には吹上中と下忍中の2校が並立していました。新・吹上町の誕生を祝う空気は、両校の一体化を求める機運を高め、統合を果たしたのが昭和33年（1958）10月1日でした。以来、この日を開校記念日としています。しかしながら、校舎は相変わらず両校を使用し、新校舎が竣工して生徒が顔をそろえたのは、その翌年度になりました。名実ともに新・吹上中の誕生です。なお、統合の後に校章（左）も新たに制定されました。『図案は、武蔵野に生い立つものの質実剛健さ、豊かに実る稲穂、吹上・小谷・下忍三地区統合の象徴』と、当時の学校新聞に紹介されています。

体育館のステージ正面に、国旗・市旗・校旗が並べて掲げられています。市旗は昨年度に市章が変更された際に新調されましたが、国旗と校旗は古いままでした。そこで、この度、学校応援団の皆さんが新規に張り替えていただきました。真新しい三旗がそろう、気分一新です。ありがとうございました。